

今後の講座実施計画及び目標（本年度の日付・テーマ・講師名入りのシラバスを別紙添付）

※シラバスが変更になった場合は速やかに財団までお送りください。

当コースは正規コースとして継続され、期末試験を経て単位が与えられる。

わが校は、最近、学制面の改革を行った。新しい制度は2017年9月から実施される。それにより、言語部門を除くすべてのコースは一学期間（12週間、各週2～3時間、6単位）に行われる。この改革の理由の一つは、クラス・クレジットの時間を減らして、学生の、試験に備える学習時間を増やすことである。「ヨーロッパにおけるアジア共同体」は第二学期（2018年3月～5月）に行われる。したがってすべての講義（12回）は第二学期に行われる。「ヨーロッパにおけるアジア共同体」コースは（ワークショップ・セミナー形態による）集中トレーニングを含み、正規の講義は第二学期の月々に配分される（6単位の授与条件として、全講義時間は36時間でなければならない）。

このプランは今後も踏襲される（講師だけが入れ代わる）。

「ヨーロッパにおけるアジア共同体」2018年度シラバス（3月～5月）

1. 3月2日「第二世代の朝鮮系イタリア人の中の、想像上のコミュニティ創設；せめぎ合うアイデンティティ間の主導権争い」
Chung Somin（仁荷大学、多文化、研究員）
2. 3月16日「東アジアの読書文化のボーダーライン」
Cheon Jung Hwan（成均館大学、朝鮮語・朝鮮文学、教授）
3. 3月30日「アジア共同体における諸アイデンティティのボーダーラインを越えて」
Antonetta L. Bruno（サピエンツァ大学イタリア東洋研究所、教授）
4. 4月6日「家族制度のアジア的感覚」
Giuseppina De Nicola（サピエンツァ大学イタリア東洋研究所、教授）
5. 4月20日「アジア諸国に通じる文化語」
Oh Yoon-jong（梨花女子大学国際研究大学院、講師）

ワークショップ「アジア・コミュニティ内の人々の移動」（2018年5月4-5日予定）

6. 「グローバル・アジアの中の移動」
Ahn Yonson（ゲート大学フランクフルト・アム・マイン、朝鮮研究、教授）
7. 「南から南への移動、沿岸から沿岸へのディアスポラ、グローバル（エスニック）都市における多言語、異文化アジア・コミュニティ」
Mara Matta（サピエンツァ大学、アジア研究、研究員・講師）
8. 「タイ国から韓国への労働移動」
Natthaya Sattayaphongphan（タイ商工会議所大学、朝鮮研究主任）
9. 「（目に見える）境界の打破、新（無）境界の引き直し：移動の時代のアジア共同体アーティストたち」
Filippo Salviati（サピエンツァ大学イタリア東洋研究所、教授）
10. 「アジア共同体における民族性、アイデンティティおよび政治的差異」
Hasan Al Shafie（ダッカ大学、人類学、准教授）
11. 「アジア共同体内の移動とディアスポラ」
Clelia Clini（ローマ・アメリカン大学ほか、非常勤講師）
12. 「アジア内の移動シアターにおけるアジア共同体の創設」
Monica Mottin（ロンドン・メトロポリタン大学、社会人類学、講師）

※記入欄が不足の場合は、別紙を添付してください。